

CONVERSATION ABOUT CHRIST

井深梶之助著

耶や蘇そ教け問もん答たふ

二〇一四年七月復刻

明治学院歴史資料館

耶
穌
教
問
答

— 井深梶之助生誕百六十年の年に —

耶穌教問答

爰に和助といふものあり一日その友傳藏に問ていはく

時に傳藏さん貴君は近頃耶穌教を頻に御信仰なさるそうだがなんと僕にも少し聽せてくださるわけには参りませうまいか僕もいつからかこの教を聽てみたいと思つて居ましたが、ツイまだ一遍も聽てみたことがございませぬ

答傳藏それは、未だ一度もお聽なされたことがございませぬか、そんなら幸今日は僕も暇で居から暇にまかせてお話いたしませう然し耶穌教と申ても口ではたゞ一言だが餘程洪大なことゆゑなかく一度に何も彼も申あげるといふわけには参りませぬ、それゆゑに今日のところは先その極大切な件々を取摘んで眞の大略を御話いたしませう、そうして今日は貴方も始めておきゝなされることなり且ご存の通り

【復刻版の基にした1899(明治32)年版】

- ルビは現代仮名遣いに、漢字は常用漢字を基本にした。
- 原文は読点のみの表現である。
- 現代の視点では問題とされうる表現もあるが、当時の歴史的背景を考慮し原文のままとした。

イエスキヤウもんどう
耶穌教問答

こゝ わすけ
爰に和助というものあり一日その友伝蔵に問ていわく
とき でんぞう あなた ちかごろイエスキヤウ しきり ごしんこう
時に伝蔵さん貴君は近頃耶穌教を頗に御信仰なさるそうだがなんと僕にも少し聴せてく
ださるわけには参りますまいか僕もいつからかこの教を聴てみたいと思て居ましたが、
ツイまだ一遍も聴てみたことがございません

こたえ でんぞう
答、伝蔵 それはそれは未だ一度もお聴なされたことがございませんか、そんなら幸
きよう わたし ひま いる ひま はなし
今日は僕も暇で居から暇にまかせてお話ししましょう然し耶穌教と申ても口ではただ
ひとこと よほどこうだい
一言だが余程洪大なことゆえ、なかなか一度に何も彼も申あげるといふわけには参りま
せん、それゆえに今日のところは先その極大切な件々を取摘んで真の大略を御話いたし

ましよう、そうして今日きょうは貴方あなたも始はじめておききなされることなり且かつご存ぞんじの通四角な文字
わたしは大不得手故成丈六ヶ敷語いを入れずに出来だけ解りやすいように御咄おはなしいたします
 からその積つもりでおききください

さて、だいいちおはなしようさ
 偕そこで第一に御咄申ねばならぬのは神様のことだと申たらイヤ神様のことなら態々わざわざ
あなたにお尋申さずとも、これまで度々人に聴たこともあり、書物で読んだこともある
 と、おっしゃるかも知らんが、いえずきょう耶穌教の神様はこれまで御互おたがひに神々と申したものは
うんでい雲泥のちがいがございます、御案内の通これまで唐山や日本で神々と称えたのは天の
かみ神とちか地の神とかみか山の神とかぜか風の神とかみか、これは何国の鎮守神だとだれそれか、あれは誰某の
うじかみ氏神だともうか申して、天には天の神てんがあり、地には地の神ち、山には山の神やま、河には河の
かみ神かみというように場所や人によってばしょみなそれぞれ神が別べつにあるものようにおもしろ

たが、いえずきょう きい 耶穌教を聞てみれば決してけつ そういう訳合のものではなく、かみ 神というものは唯一ただひとつ
のものでございます、あなたかんがえ 貴君考てごらんさいその道理ではどうり ございませんか、かみ もう 神と申す
からは始もなく終もなく智慧も能力も慈愛も威光も限なく最高き最尊きものでなけれ
はじめ おわり ばなりますまい、しかし 然ながら理に於て最尊く最高きものが二個とありようはふたつ ございませ
もし ん、若それがあるというならば二と無ものが二あるというのも同じことおな でございま
かみ す、それゆえに神というものは是非とも唯一ただひとつ でなければならぬ道理でございませ、ま
てんちばんちつ た天地万物を觀察にその状態こそありさま 変れ、その営経を考えその本源を探ればもと さぐ 悉く一致ことごと に
き 帰します、それというも畢竟唯一ひっきょうただひとつ の全智全能なる神があつて万物をお創造なされた
しようこ 証拠でございませ、ふる 古き語にも天に二日なく民に二王なしとやら申しますが、たといち 縦令地
ばんこくおう に万国王あり、てん 天に千日輪ありとも、うちゅう 宇宙に二神あるべき道理は決してけつ ございませ

ん、それをこれまで私共は八百万の神とか六十余州の神々とか、いって神の数の多いの
 を誇っていたとは、なんとマア笑止千萬なことではございませんか、そうして神は唯一な
 るものゆえ国や所によつて違ものではなく、天の神はすなわち地の神英吉利や
 亜米利加の神はすなわち日本の神、私の神はすなわち貴君の神、貴君の神はすなわち私
 の神で唯一の活る眞の神があるばかりでございませぬ、それをこれまででは、イヤそれは
 異国の神で候とか、これは日本の神だから、毛唐人等には拝ませられないとかいって
 威張たのは実に狭い量見ではござらぬか、和助君貴君は何とおぼしめすか、伝蔵などは
 これをおもつたばかりでも背に汗がながれます、そうしてまたこれまでお互に神々と称
 たのは、先日とか月とか星とか高山とか大河とか往古の英雄豪傑の靈魂とか左もなくば
 大蛇とか老狐とかを祭たものだが、耶穌教信者の拝む神は決して左様のものではござい

いえずきよう かみ すな うちゆう しゆさい てんちばんもつ そうぞう こんじち
ません、耶穌教の神は則ち宇宙の主宰で天地万物を創造し今日にいたるまで能くこ
れを維持たもすべすべいのち いき よろず
つてつて堂宇どうみやのうち すみたま もろんきんぎん き いし
の中には住玉うちわず、勿論金銀や木や石などをもつて刻だ偶像きざん ぐうぞうのごときもの
ではございませぬ、耶穌教の神は活る神で、われわれも彼によつて生きまた動うごきた
存ぞんことが出来るので片時の間もその恩沢にあずからぬことはございませぬ、然るに
せけん ひと おん おん かえつ かみ ひ つき ぐうぞう ひれふ つかう
世間の人はその恩を恩ともおもわず、却て神でもない日や月や偶像などに俯伏し服事
べき真まことの神には服事つかえず、ただ自分の好む儘じぶん この ままにものごとをし様々の悪事あくじをおこなつて恥
とも思おもわずに居るとはなんと神に対して罪いふかきものではございませぬまいか、斯様申
したら、イヤ僕は罪を犯した覚はないとおっしゃるかも知ませぬが僕の申す罪とは
せいふ はつと おか かみ おきて やぶ
政府の法度を犯すことではなく、神の律法を破ることでございませぬ、御存の通政府の

はつと ひと おこない 法度はただ人の言行に顕れたことに關係するものだが、神の律法は人の言行ばかりでなく、その思念にも關係り至て隱密な所にも及ぶものでございます、そうしてその律法は聖書といふ神の書物にも記載であるが、又人々の心にも銘してございます、そこで若自分の心に銘してある神のおきて、即ち己の良心に照して少も愧る所のない人があらばその人は罪を犯したことの無い人ともいひましようが恐くそんな人は天下中たずねても見かりますまい、又たとい自分では少も良心に背た覺がなくとも現に罪をおかした証拠があるときは仕方がありますまい、その証拠を一々計るなら數限もないほどありますやうが、先その一を挙て申さば、彼偶像を拜むことでございます、成程自分では何も悪ことをする積でもなく、罪を犯すとも思ひますまいが全体偶像（偶像とは日月星辰木仏金仏等すべて神ならぬものを神とし拜むものをいう）を拜むといふは聖書にも申して

ある通朽はてざる神の栄光を変え朽はつべき人および禽獣昆虫の形に似せ、神の真をか
えて偽となし、造物主よりも受造物をあがめ奉り、他に帰すべからざる神の栄光を他の
ものに帰し神を藐視すること、神の威光に対してこの上もなき大罪でございます、こ
の通一々罪を糾されたならいかでございます、所詮推誘るべきようはございますまい
神に対してその罪の方が一も申開はたちますまい

問、和助 成程左様、承知てみれば人というものは実に罪深きもので神に対してすまぬ
訳合のものでございますが、神はどうして又そんな罪ふかきものをお造りなされたもの
でございますまいしょう

きたえ でんそう 答、伝蔵 わげ イヤそういう訳では決してありません、最初神が人をお造りなされたときは
まこと 誠に清浄潔白で罪悪などは露ほどもないものであったが、人間の始祖アダムとエバとい
かみ うものが神の命令にそむき、禁制の樹の果を食てから人の性質が一変して悪となり、わ
ししそんそん れわれ子々孫々にいたるまで罪ふかく難渋なものとなったので神が始に人を悪いものに
つくり お造なされたという訳では決してございません、人が罪ふかきものとなり、日々罪を犯
まつた すのも全く自分の科で神の過は秋毫ほどもございません

と 問、和助 わすけ 左様なら神様はわれわれ人類をいかなさりましたし、罪ふかきものゆえにみ
ばつ な罰して滅しておしまいなさいますようか、先刻貴君は神は限なく慈愛ふかきものだ
おほ おはなしなされたように思いますが、それでも神様は慈愛ふかきものと申されましよう

もしほんとう あわれみ かみさま
か若本当に慈愛ある神様ならば、どうかして私共のような罪人も救われる仕方はないものでございましょうか、ただこればかり聞ては眞の神を知ったとはいうものの、ただ恐
すこし ありがたい
いばかりで少も難有とおもうことはございませぬ

こたえ でんぞう
答、伝蔵 しごくごもつとち おたずね
至極御尤な御質問でございませぬ、おっしゃる通ただこればかりでは実に
ふまんぞく
不満足なものでございませぬが、ただこればかりが耶穌教ではございませぬ、前にも申す
とおりのかみ じつ あわれみ
通神は実に慈愛ふかきものゆえわれわれ人類が罪の中に沈淪るのを見かねて、そのうち
すく
よりわれわれを救い出して限なき生命を与えんとて天より一人の救主をお下しなされ
かみ こ
ました、神の子イエス・キリストとは即ちこの救主のことでイエスは自ら神でありなが
いやし ひと かたち
ら賤き人の形をとり、今よりおおよそ千八百年むかしユダヤという国に降誕なされ三十
せんはつびやくねん
すくいぬし
かみ
く に おうまれ
さんじゅう

さんねん 三年のあいだ 人間にんげんのうちに住すみ、おおよそ三四年さんよねんの間あいだというは始終しじゅうしよしよ処々しゅうろくろくを周歴しゅうれきして神かみの
 まこと 真理まことを説とき、神かみより遣つかいされた証しょうこ拠いろうこに種々びようじんの病人いやを癒しし死人しにんを穌よみがえらせ、その他たおおくの
 ふしぎ 不思議ふしぎなるわざをおこなひ、終ついに神かみの旨むねにしたがい悪人あくにんのために捕とらわれ羅馬ろうまの方伯ぶぎようボン
 テヲピラトけんの権けんによつて罪つみせられ、カルバリーけんという岡やまの上うえで磔はりつけに掛かけられ死ししてのち
 みつかめ 三日目よみがえに穌よみがえ生なり、そののちなお四十日しじゅうにちの間あいだこの世界よにとどまつて、しばしば門徒でしたちにあら
 われ、終ついに敢攬山かんらんざんという山やまの上うえより門徒でしたちの集あつまつている目前めまへで天てんへ昇のぼり、父ちちの神かみのもとにお
 かえりなされたが、素もとその天てんの栄光さかえをすててこの世よにくだり三十余年さんじゅうよねんの間人あいだとともおに居お
 り、数限かずかぎりもない苦痛くるしみと恥辱はずかしめをうけ、終ついに十字架じゅうじかのうえに我神わがかみ々々わがかみ何故なげにわれを捨すてたまう
 やと叫よびびたまうほど苦くるしき最後さいごをとげたほかのも外ほかの訳わけではございません、御自身ごじしんには
 一つほど 一点ひとつの罪つみもなく、傷きずもないのに、われわれ人間にんげんに代かわつて神かみの罰ばつをうけわれわれかみに神わほくと和睦わほく

をなさしめ、そうして限なき生命をあたえんため、すなわちキリストは私のためにも
あなたのために、世界中のもののために死たましたのでございます、なんと和助
貴君のためにもすべて、
君これは喜しき音というものではございますまいか、神の限なき恩恵というものでは
ございますまいか、そうしてその救を受ける仕方というも何も面倒なことではなく、金銭の
かかることでもなく、骨の折ることでもなく、ただ誰でも男でも女でも貴い人でも賤い
人でも英吉利の人でも亜米利加の人でも支那人でも日本人でも主イエス・キリス
トを信ずるものはこの限なき生命をうけることが出来ます、如何なれば聖書に夫神はそ
のうみたまえる独子を賜うほどに世の人を愛したまえり、こはすべて彼を信ずるものに
滅ることなくして限なき生命を受しめんがためなりという明文がございます

耶穌教問答おわり

井深梶之助『耶蘇教問答』

井深梶之助（いぶかかじのすけ）一八五四〜一九四〇

井深梶之助は会津藩士の家に生まれ戊辰戦争に参戦後、横浜でS・R・ブラウン、J・C・ヘボンらに学び、米国長老教会・米国オランダ改革教会・スコットランド一致長老教会が共同で築地居留地に開設した東京一致神学校へ進学。同校助教を経て、明治学院神学部教授、さらにヘボンの後を継ぎ明治学院第二代総理を三十年間務めた。

『耶蘇教問答』

この著は、一八七八（明治十一）年、井深が東京一致神学校に在学中、学内の懸賞に応募し、みごと一位に当選した。その賞金は十五円程であったという。（菊田貞夫「井深先生関係資料」第三冊）

耶蘇教または耶蘇教と書いて「いえすけう」とルビが振られている。耶蘇はイエスJesusの中国式当て字であり、日本にも江戸時代に文献を通じて流入したが、発音がわからずにヤソと読まれ、教会外では軽蔑的に使われていた。表題は途中より「耶蘇教やそけう（ルビ）」が使われている。

「蘇」には「よみがえる」という意味がある。

一八七二（明治五）年発行のヘボンとブラウンによる最初の四福音書の訳では「耶蘇 いえす（ルビ）」を用いている。明治訳聖書の翻訳にあたりカロザースは、日本で一般化している「やそ」を主張したが、一八七五（明治八）年五月、日本長老教会は「いえす」を用いることを決定した。

唯一神としての「神」を説く

キリスト教の「Theos（ギリシヤ語）・God（英語）」の概念を説くことは布教の基本であるが、この理解は難しい。

中国思想では古代から「天」や「天帝」という概念が普及し、カトリックでは区別して「天主」という語を用いた。プロテスタントでは「上帝」と「神」との二訳の聖書があり、日本では「神」と表現したブリッジマン・カルバートソン版をヘボン等多くの宣教師が利用した。

しかし、古来日本の「神」は「八百万の神」であり、これと異なる「唯一神」としての「神」を理解させようとしたのがこの小冊子である。

誰もがわかる言葉で書く

漢文調が主流の明治初期にあって、平易に理解できる俗話文体で書かれ、現在読んでも違和感が少ない。おりしも『新約聖書』の明治訳が、すべての人が聖書を読めるようにと一八七二（明治五）年から八年を費やして日本語表現に取り組んでいた時期の文章である。

伝蔵と和助の対話によるSOPHの概念の巧みな表現は、神学生井深樞之助の力量が伺える。この小冊子は二十年以上に渡り重版され、東京一致神学校や明治学院の学生に読まれ、一般人へのキリスト教の布教にも使われたようである。その後井深は一八八三（明治十六）年に旧約聖書翻訳委員に選ばれた。

井深は一八八一（明治十四）年に『新約聖書馬可伝 俗話』を米国聖書会社より出版した。これは明治訳聖書を言文一致体で表現したもので、東京一致神学校主任教授アメルマンの勧めにより著した。このマルコ伝はその後、近代日本語翻訳となった『新約聖書』の大正改訳出版の直前、一九一五（大正四）年まで十六版以上の版を重ねた。

明治学院所蔵の『耶蘇教問答』4種

下右が東京一致神学校版、

下左が1888年版、

上右1892年版、上左1899年版

横浜時代・1872年頃の井深



明治学院には『耶蘇教問答』の四つの版が現存する

【解説2ページの写真参照】

①発行年不明／四六版十六切二つ折／紙縫止製本／奥付なし（著者名の記載もなし）

活字は漢字は明朝体、かなは変体仮名を含んでいる。活字から明治二十年代以前の、東京一致神学校版のものと推定される。表紙の題名は和装本の体裁で左上位置、双柱野囲みで「耶蘇教問答」のみが印刷されている。

②一八八八（明治二十一年）年六月版／四六版十六切二つ折／著述者兼発行者・井深梶之助／印刷者・廣瀬安七（製紙分社）

表紙の題名は中央位置で①同様。本文は各ページ双柱野の囲み。

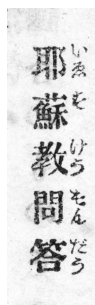
③一八九二（明治二十五年）年五月・第三版／四六版十六切二つ折／表紙色・緑／著者・井深梶之助／発行所・基督教書類会社／印刷所・秀英舎

表紙の題名は「耶蘇教問答」となっており「蘇」が「蘇」に変わり「やそけうもんだう」とルビが振られている。本文は「蘇」でルビも「い

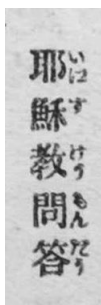
えす」のままである。本文は各ページ双柱野の囲み。一八八八年版では「経営（たくみ）」（三ページ）が、これ以降「営経」となっている。

④一八九九（明治三十二年）年三月・第十二版／四六版十六切二つ折／表紙色・赤／著者・井深梶之助／発行所・基督教書類会社／印刷所・秀英舎
体裁は③と同一

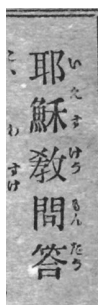
【各年版の1ページ目の表題】



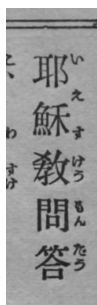
発行年不明版



一八八八年版



一八九二年版



一八九九年版

井深梶之助『耶蘇教問答』復刻版

最初の印刷 明治十一年（推定）

復刻版印刷 二〇一四年七月 一刷

二〇二二年十一月 増刷

発行者 明治学院歴史資料館

東京都港区白金台一―二―三七